

市仏連会報

発行所

横浜市中区大平町96

光明山西有寺内

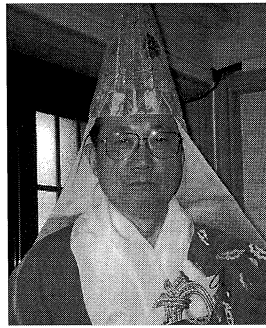
横浜市仏教連合会

電話(045)661-0166

政治の道具とされかねない 宗教の姿

横浜市仏教連合会
会長 都 築 哲 信

平成十六年を迎えてもう平成の年号も当たり前に響く頃になり、平成世代の中学生も登場しており



昭和の時代は六十四年間で現在活躍している多くの人々はこの昭和世代で占められております。昭和の時代を激動の時代と呼びますが、これは歴史の続く限り何時の時代を見ても、激動の時代と言えます。従って、この平成の御代も激動の時代になることは当然と思われま

教をからめて戦争が展開しており、初期のうちは勢力範囲を広げ特定場所を占領することに目的がありました。しかし、時代が下るや、資源と軍事基地の確保が目的で植民地を広げていきました。この先兵となつたのが宗教であります。ヨーロッパ列強諸国の触手は挙つてアジアに向かつて来ました。宣教師達はそれぞれ純粋に布教のためにアジアにおいて活動したはずですが、それが植民地政策の手段に利用されております。日本における種子島の鉄砲の伝来も宣教師と一緒になっており、純粋な商売のためではありません。太平洋の真ん中はどうして米国の州があるのだらう。ハワイは小錦や曙に代表されるようにポリネシア系の人種で陽気なハワイアンで国でした。十八世紀の後半に西欧人が渡来してからは、社会の仕組みに歪みが出来、米国はキリスト教の宣教師や実業家を送つて実権を強めてきました。このためカメハメハ王朝は危惧感を強めハワイ王国を守ることに知力を尽くしました。しかし、西欧の進んだ国からすれば未開地に等しいハワイ王国は大きな土足に踏み込まれ、

米国は一八三三年に「ハワイのためのハワイ」を唱えるリリウオカラ二女王を追放する陰謀を実行しました。これには英国や仏国も反対しましたが、強引な米国の前に引き下がり、六十六年後の一九五九年に米国第五十番目のハワイ州となり、事実上ハワイ国は消滅しました。

宗教が特定の国の利益と權益によつて利用されているのは幸せを願う宗教の姿ではありません。仏陀の教えは、「自分との戦で仏様が喜んでくださること」をすることです。決して他国や他人を支配するものではありません。現在の政治情勢、世界情勢は知らぬ間に、意外な方向に引きずられることがありますから、我々は十分に仏眼を開くことが必要です。

お知らせ

◎春の仏跡参拝旅行案内

期日 平成16年6月10日(木)
旅程 袋井IC↷可睡齋↷莒蒲園
↷掛川↷焼津↷横浜

旅費 九千五百円(5/10ヶ月切)

◎釈尊奉讃会総会

日時 16年5月8日(土)午後3時
会場 港北区東照寺

◎市仏連合会総会

日時 16年5月18日(火)午後2時
会場 中区西有寺

―涅槃会担当区予定―

- 第30回 平成17年 中区
- 第31回 平成18年 港北区
- 第32回 平成19年 金沢区
- 第33回 平成20年 南・港南区

歳末理事会報告

平成15年12月8日(月)、午後5時より、華正樓本店にて歳末恒例の理事会が開かれ、20名が参加した。

―開会のことは 玄野副会長
―挨拶 都築会長

―第29回涅槃会 山本都筑区会長
―平成16年度総会の件 林田専務

―秋の仏跡参拝旅行報告
―平成16年春の仏跡参拝予定
―泉慰霊堂出仕予定の件

―話題提供 遠藤顧問弁護士
終わつて懇親会。乾杯は横浜市仏連顧問。閉会のことは川上副会長。司会進行は林田専務理事。



―泉慰霊堂出仕当番表―

- 平成16年4月 西区
- 平成16年6月 磯子区
- 平成16年10月 港北区
- 平成16年11月 金沢区
- 平成17年4月 中区
- 平成17年6月 保土ヶ谷・旭区

第二十九回 涅槃会厳修

於寿福寺円通閣 都筑区仏教会担当

平成十六年二月十二日(木)、当番区の都筑区仏教会の浄土真宗・本願寺派の寿福寺(多田道空住職)円通閣を道場として、市仏連、市釈尊奉讃会共催の第二十九回涅槃会が厳修され、僧檀一四〇名の参加があった。大変に暖かい良天気にも恵まれた一日であった。円通閣は市営地下鉄センター南を下車して五分位のところにある現代的な多目ホールである。駅周辺はコンクリートの建物群で未来都市の空間に降り立った気分させられた。

会場の寿福寺様は都筑区茅ヶ崎東一ノ七〇一に在る本尊阿弥陀如来をまつり、開創は大同元年(八〇六)という古刹である。十一時から都筑区仏教会、寿福寺、市仏連、釈尊奉讃会の役員関係者が集まり設置準備にいそしみ、直前打ち合わせ会議をし、昼食をいただいた。午後一時半より法要、午後二時十五分より講演。式次第。導

師・横浜市仏教連合会長・都築哲信師。脇導師・都筑区仏教会会長・山本信行師、寿福寺住職・多田道空師。金座(維那・経頭) 都筑区仏教会副会長、鈴木田越龍師。式(職) 衆三口・都筑区仏の諸師。司会・市仏連専務理事・林田眞成師。先、開式の言葉・市仏連副会長・玄野孝善師。次、導師・式衆入堂。次、一同三礼。次、三帰依文の唱和 導師についで唱和。次、啓白文の奉読、導師・都築師。次、読経(観音経普門品偈、舍利礼文三遍) 鈴木田越龍師、参列者唱和。指名焼香、市仏連顧問斎藤隆法師、釈尊奉讃会副会長増島和亥氏。参列者は回し香炉にて焼香。回向文・鈴木田越龍師、普回向・和文の願わくば…を唱和。次、一同三礼。導師・式衆退堂。次、トイレ休憩・ピーエス観光の真川氏より春の仏蹟参拝の案内。次、市仏連会長挨拶・都築哲信師。釈尊



横浜市仏教連合会



奉讃会会長挨拶・増島和亥氏。神奈川県仏教会会長挨拶・横山敏明師。都筑区仏教会会長挨拶・山本信行師、講師紹介も兼ねる。次、講演「涅槃について・死に方は生き方」講師・保土ヶ谷区の高野山真言宗、真福寺住職、安井覚明師。約一時間を涅槃図を拝しながら、キリストの死と釈尊の死の違いを知り、お釈迦さまの遺された教えを学び人間の「死に方は生き方」に触れられた。檀信徒の生死と日々格闘しているエピソードを声色を変えながら、豆知識もふんだんに散りませて、聴衆に問いかけもして、※明日の命もわからない、※出逢いがその人の人生を決める、※この世は思うようにならない、という、お釈迦様の残された教えをいただき、ありがとう、ごめんなさい、素直に言える懺悔の心を発露することが大切であると熱弁された。次、釈尊奉讃会のお知らせ・釈尊奉讃会副会長・清水氏。次、閉式の言葉・市仏連副会長・

川上敬吾師。最後に甘酒が全員にふるまわれた。お土産は涅槃会の葉、都筑区仏教会篇の三十二ヶ寺を網羅した寺院グリーンマップと供物の聖果実・仏手柑センペイと仏手柑鉛入りの菓子箱一つである。寿福寺の奥様が作務衣姿で実いきびきびとこまやかに接待の先頭に立たれていたのが好印象でした。次に三時半から円通閣の二階の広

講演要旨 「涅槃について・死に方は生き方」
保土ヶ谷区 安井覚明師

お釈迦様は35才で悟りを開かれ、80才まで生きられました。その間の45年間、ずっと法を説かれましたが、帰果本能といましようか、生まれた所へ向かうクシナガラで亡くなりました。

亡くなられた理由は、肉入りの毒きのこを食べて当たったと言われています。他にもガンの説とかがあるようです。肉食といっても人々からの施しは、何でも召し上がっていた訳ですが、肉を食べて亡くなられたということだけが記憶に残ってお坊さんは肉食をしないということになったと考えられます。

そして、頭を北に向けたということですが、インドで北はヒマラヤ方面を指します。天に一番近い聖地に向けたものと考えられます。亡くなられた日については、不明なのですが、イシャーラ(第二)月の満月(十五夜)ということから二月十五日と考えられてきました。この…現在の太陽暦ですと

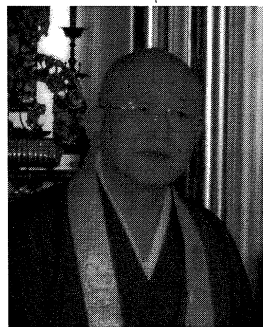


間で反省会が持たれた。四時過ぎに散会となった。第二十九回市仏連涅槃会が都筑区仏教会様、寿福寺様寺院婦人檀信徒世話人、開業者の多数の関係者各位の御支援とご協力のお蔭を持ち、無事円成できた。



2004/02/12 13:01:42.8

ことは、涅槃図を見ますと、獸から虫たちに至るまで花も葉もしおれ、森羅万象、山川草木の生あるものの全てが悲しんだということです。ここがすごいことです。



「山川草木悉皆仏性」、すべて
の山川草木に仏性があり、仏さまの魂があると、仏教では説きます。ですから、自分のしたことが他のためになって自分に還ってくる自利他があるのです。自分も他も両方救われる、それが、山川草木が互いに生かし生かされている訳なのです。

ゴキブリは皆から嫌われますが、私は尊敬しています。何故なら、数億年も脈々と生命を維持しているからです。イチヨウの木もそうだと思います。自然の中には人間の生命力よりもっとすごい生命力を持っているものがあるのです。

「いつ死んでもよし、いつまで生きててもよし」、これは禪をアメリカに紹介した鈴木大拙さんの有名なことばです。しかし、なかなか難しいことです。夏目漱石は、「今、死んでは困る」と言いました。江戸時代の仙涯和尚は、死に臨んで心境を聞いた時に「死にたくない」と言われたそうで、さら

にもう一言と聞いたら、「どこか一本当に、本当に死にたくない」とおっしゃったそうです。近所に、いつ死んでもいいという人がいます。ところが少し具合が悪くなると、あたふたと病院へ行ったり救急車を呼んだりしています。本心は死にたくないわけなのです。

人間というのは、人種とか境涯とか、何をするとか関係なしに変わって行きます。それを無常と言います。「常ない」ということは良い方にも悪い方にも変わります。いつも同じではないのです。ですから、その時の姿によって決めつけてはいけないのです。あの人はケチだとかどうとかよく決めつけてしまいがちですが、生きている姿はみんなその時その時で違います。その時の生き方を認めてあげるのがお釈迦様のみ教えなのだと思えます。

人は、病氣などで苦しんだり、苦勞して悲しい思い、つらい思い、せつない思いをすればする程、人格が高まり、死に臨んだ時の顔がいい顔になるように思えます。大きな気持ちで何もかも認めて包み込んでくれる、そんなお釈迦様の偉大な大きな心と一つになるのだと思えます。つまり、人間は苦勞すればするほど、神や仏の境涯に近づいていくのでしょうか。ですから絶対に悔やまないで下さい。悔やんだらみじめさだけが残ります。一切は心から転じますので、良い人生だという自信を持って下さい。人間が人間以上のもの(仏)になっていくところこそ、生きがいがあります。

お釈迦様のみ教えは、明日の命がわからないという無常と、次は出合い(縁)によって決まることです。人間と人間はもちろん、自然との出合いもあります。家族・近隣・親戚、お寺との出合い、学校、社会などあらゆるところでの出合い、あるいはペットとの出合いもあります。すべての出合いがその人の人生に関わっていきます。そして、それらがすべて生老病死の四苦八苦とつながっています。

人生は思うようにならないものですが、その思いを少しでも悔いのない人生に変えるように努力精進することが大切です。出合いの一つひとつの命、生き方を認めてあげて、よりよい出合いに変えていこうという気持ちを養っていくことが仏教をいただくことだと私は思っています。



第20回横浜市仏教連合会-涅槃会 敬：都筑区仏教会事務局にて 平成16年2月18日



2004/02/12 13:3

時局対策委員会報告

委員長 佐藤功岳

平成十六年二月十六日、本委員会は発足以来四十二回目の委員会を開きました。

平成十三年の八月に開催いたしました葬祭業者との協議会において、市内仏教寺院が、未だ菩提寺(手継ぎ寺)を持たず葬儀に直面した市民に対し安心して葬儀を依頼できるネットワーク設立の要望を受けました。

以来、組織化に取り組んできました。このご承知のとおりでございます。

お陰を持ちましてこの組織も「正しい仏教葬儀普及ネットワーク」(略称「市仏ネット」として平成十五年九月三日横浜市仏教連合会の臨時総会にてご承認いただき同年十一月十日に第二回葬儀業者と本会との協議会を開催して発足いたしました。

市中区山下町の「ホテルヨコハマガーデン」に於いて発会式を開くことに成っております。

葬儀は、人間の崇高な宗教儀式であり、また今日では寺門運営に不可欠な要素でもあると存じます。しかるに、この最大の布教の場面が、私ども仏教界が、目指す方向と異なる場合が見受けられるようになってきた。時間の経過いたしました。

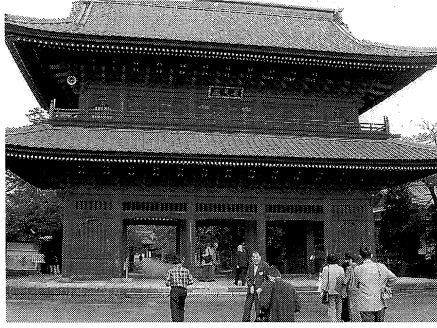
こうした時間を黙過したことに、私たちが仏教僧への信頼も失われ、斯界の自浄力さえも問われるようになってしまいました。

横浜市の三百五十万人を越える人口に対し在来仏教の布教拠点は五〇〇前後に過ぎず一布教拠点当たり二千九百二十世帯となります。しかし、市内にはキリスト教会や他の宗教拠点もありますのでこうした数ではありませんが市民の

市仏ネット

フリーダイヤル(一般向け) 0120-922-887

- ◎平成16年4月2日に発会式を行い、本格的に始動いたします。
 - ◎4月現在、ネット協力寺院は110ヶ寺程です。さらに、会員の皆様のご協力をお願いいたします。
- 問い合わせ 時局対策委員長 大圓寺 佐藤功岳 ☎641-4933



昨年(平成十五年)、九月二十九、三十、十月一日の三日間の日程で、当会及び横浜市釈尊奉誦会の秋の仏跡参拝旅行が行われた。昨年の九月は冷夏の後の反動か、例年になく厳しい残暑に見舞われ

秋の仏跡参拝旅行

新潟・山形・宮城方面

大多数は仏教とされております。今日まで、こうした菩提寺を持たない方々の葬儀を葬儀社が使い、易い僧侶(?)が執り行い、そして多くの場合宗教本来の使命たる布教をすることから距離を置くことを余儀なくされている実情もアンケートを通じて報告されております。

このように、布教を離れ、単なるセレモニー化した葬儀(?)は前述のごとく、私たちの信用失墜に拍車をかけて参りました。

た。そんな中、当日は秋らしい爽やかな青空に恵まれ、涼しい風の下、横浜駅天理ビル前に集合した一行は午前七時に横浜を後にした。車中では玄野市仏連副会長、林田専務理事が挨拶。バスは首都高速・関越自動車道を経て、新潟県へ。車窓から関東の霊峰、妙義山・赤城山が目に入る。

関越トンネルを越えると新潟県。米どころだけあって黄金色に輝く稲穂の中を行く。「冷夏の影響は?」と心配する向きもあったが、「やっぱり本場だね。稲穂の色が違う」と一同、感心の様子。

高速道路からすぐのレストラン「キタロー」で昼食、せいろ蒸しが温かい。ここは鉄器で有名な場所だ。日本有数の銚物の産地ということで、みやげ物売り場には刃

現在の仏教界の危機に対し、私たちはあらゆる方策を用いても回避し、信頼回復への道を辿らねば、次なる師弟に自信を持ってパトントッチすることが出来なくなってしまう。

「任に当たって他に譲りがたし」の教示の如く、いま私たちは目前の問題を軽視せず、自分の成すべき任務に全力を傾注して行動すべき時ではないでしょうか。



本成寺牛の間に

物、鍋などの鉄製品が並ぶ。

そして、午後一時に法華宗総本山である長久山本成寺に到着。バスを降りるとパラパラと小雨が、足早に山門を目指す。

本成寺は二九七(永仁五年)、日印聖人によって開かれた。日印聖人は、文永八年に日蓮聖人が佐渡に配流された時に、摩訶丸の名を賜った。その後、比叡山で修業されて、再び日蓮聖人を鎌倉に尋ねたが既に亡くなられていたため、弟子の日朗聖人の門下に入り、故郷のこの地に伝道布教されることになった。その際、日印聖人は白牛に経巻を載せ、「この白牛の止まる処に寺を建立しよう」と考えられた。そして、その白牛がひざまずいたところに、草庵が結ばれた。

その後、三條領主の寄進によって立派な寺が建立されたのが、現在の本成寺である。白牛の話に因んで、現在でも「牛の間」という

部屋には白い牛の像が安置され、参加者は牛の身体をさすってお参りしていた。

本堂の内陣を囲む欄間には、日蓮聖人と日印聖人の一代記をモチーフにした彫刻が施されている。鎌倉社説法や龍ノ口の奇跡など有名な場面も再現されている。見事な欄間に一同溜息をついていた。

法華宗は都筑市仏連会長の宗派ということもあり、本堂で諷経を挙げたあと、都築会長が挨拶。また、会長のご縁もあつてか、お茶によるおもてなしがあり、一同、旅の疲れを癒した。

翌九月三十日は、昨日の天気か嘘のような快晴。八時にホテルを出発すると、一行は、鶴岡市の曹洞宗龍澤山善養寺を拝登。

善養寺は「東の善養寺、西の金毘羅」と言われ、北海道、東北地方を中心に全国的に「水の神さま」として信仰の対象となってきたことで有名である。現在でも漁業関係、海運・船舶関係の人達が熱心な信者となっている。

妙達上人が天慶年間(九三八〜九四六年)に、この地にやってきて、龍華庵という庵を結んだのがその始まりとされる。延慶年間(一三〇八〜一三〇年)には、大本

山総持寺二祖峨山紹碩禪師が教化を垂れたと言われている。

江戸時代には本堂や庫裡が整えられた。曹洞宗の三大祈祷寺と呼ばれる祈祷は、毎日この本堂で修行されている。

善養寺の参拝が終わると、次の目的地羽黒山に向かう。庄内平野は米どころだけあって、見事に実った稲穂が我々を迎えてくれた。

十時頃、羽黒山に到着。羽黒山は月山、湯殿山と共に、出羽三山と呼ばれている。出羽三山は山岳信仰の霊場として信仰の対象となってきた。修験道の修行の道場としても、役割を果たしてきた。

さて、羽黒山は標高が低く割合簡単に頂上付近まで行ける。そのため、冬の間登ることの出来ない月山・湯殿山の神さまを併せて祀り、お参りすることの出来る、「羽黒山三神合祭殿」が建てられている。藁葺きに朱色が映える合祭殿は、国指定の重要文化財でもある。

羽黒山に別れを惜しみつつ、十



山総持寺二祖峨山紹碩禪師が教化を垂れたと言われている。

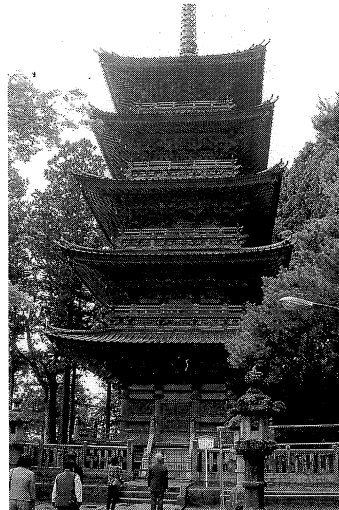
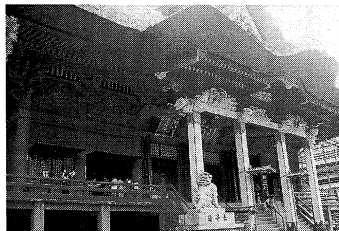
江戸時代には本堂や庫裡が整えられた。曹洞宗の三大祈祷寺と呼ばれる祈祷は、毎日この本堂で修行されている。

善養寺の参拝が終わると、次の目的地羽黒山に向かう。庄内平野は米どころだけあって、見事に実った稲穂が我々を迎えてくれた。

十時頃、羽黒山に到着。羽黒山は月山、湯殿山と共に、出羽三山と呼ばれている。出羽三山は山岳信仰の霊場として信仰の対象となってきた。修験道の修行の道場としても、役割を果たしてきた。

さて、羽黒山は標高が低く割合簡単に頂上付近まで行ける。そのため、冬の間登ることの出来ない月山・湯殿山の神さまを併せて祀り、お参りすることの出来る、「羽黒山三神合祭殿」が建てられている。藁葺きに朱色が映える合祭殿は、国指定の重要文化財でもある。

羽黒山に別れを惜しみつつ、十



保土ヶ谷・旭区仏教会及び、同仏
 教奉讃会では、平成十五年十一月
 の参拝旅行に、平成十五年十一月
 六日(木)、バス三台百五十名の
 参加をいただき、成田山東京別院
 (深川不動堂)を参拝。当寺は元
 禄十六(一七〇三)年に旧永代寺
 に出開帳したのが始まりで、「名
 優五世尾上菊五郎」の碑もありま

一時傾山を下る。日本三急流の最上川も見えてきた。十一時四十五分に昼食となる。そして、十二時三十分に出発、最上川下りに向かう。ところがここでアクシデントが発生、この先の道路で事故が発生した由。そこで急遽予定を変更して湯殿山に参詣することになった。船頭さんの「最上川舟唄」を楽しみにしていた人もいたようだが、「風も強いみたいだし、止めて良かったかもね」との声も。バスは湯殿山へ。途中、風力発電の巨大な風車が何台も回っている。広い平野で一斉にクルクルと羽を回す姿は圧巻だ。

午後二時頃、湯殿山の中腹に着。湯殿山は山自身がご神体である。湯殿山神社本宮での参拝は湯が流れる岩の上を上ってお参りするのだが、この時、裸足になりお払いを受けなければならぬ。やや冷たい風の吹く山でのお参りとあつて躊躇する人も見られたが、裸足になり、滑らないように気をつけながら、参拝した参加者も多かったようだ。

午後三時に湯殿山を後にし、宮

伝説にまつわる言い伝えがある。平清盛の嫡男に平重盛という人物がいる。この重盛の重臣に平貞能がいる。貞能は檀ノ浦の合戦で平家が敗れると、かつて重盛が中国の欣山寺から贈られた阿弥陀如来の画像の宝軸を守り、源氏から逃れて現在の定義如来の地に隠れた。この時、貞能は世をはばかり名前を定義と変えた。貞能は一一九八(建久九)年に死去したが、従臣達は貞能の墓所に小堂を建て、如来の宝軸を安置したという。現在では縁結びと安産の神様として多くの人の信仰を集めて、毎年多く参詣者がいる。最近新築されたという新本堂は六角形で堂々とした風格が漂う。境内の定義五重塔も立派で、宮城県で初めてすべて木造による五重塔だという。そして、十時半頃に定義如来を出発、帰路につく。東北自動車道、首都高速を経て午後六時頃無事に横浜に到着した。参加人数は三十六名。勸行寺、東泉寺、東照寺、長昌寺、徳善寺、見光寺、松陰寺、大円寺、松岳院の皆様、本堂にお疲れさまでした。

支部だより

西區 ●

西區仏教会では花まつり、歳末助け合い等が主な年間行事ですが、近年の世情の混迷、生活の不安定等を考察致しますと、何か出来る事がないか、又守りより攻めの活動をしなくてはならないのではないかと考えております。世情が混迷すればする程、私達の役目は重くなつてきます。その方途は一番前より徐々に多忙になつてきている公務雑務に気を取られていた達にとつて難題ですが、仏教会の最少単位である区仏の力を結集して、何が出来るかを絶えず問いかけ、行動に移す気持ちを持ち続ける事、それが出来る時、大きな力となつて花開く事と確信致します。又、仏教会統一候補を一人でも多く政界に送り、行政に私達の考えを反映していく事も一つの方策と考えます。

● 保土ヶ谷・旭区 ●

保土ヶ谷・旭区仏教会及び、同仏教奉讃会では、平成十五年十一月の参拝旅行に、平成十五年十一月六日(木)、バス三台百五十名の参加をいただき、成田山東京別院(深川不動堂)を参拝。当寺は元禄十六(一七〇三)年に旧永代寺に出開帳したのが始まりで、「名優五世尾上菊五郎」の碑もありました。つづいて富岡八幡宮をお参りの後、日本一の大きさの御輿と横綱碑を見学、昼食には神楽坂で昔なつかしいうどん会席をいただき、午後にはとげぬき地蔵高岩寺を参拝し帰路に着く。

又、十二月三日(水)には、真言宗遍照寺様に於て、区仏教会、同奉讃会主催による「お釈迦さま成道会」が百四十名の参加のもとに開催されました。その後、高野山東京別院主監壽山良知僧正による成道会記念法話を拝聴し、堂内にてケンチン汁とお弁当をいただき、爽やかな成道会となりました。

今年度も充実した仏教会でした。



神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231-0859 中区 大平町九六
電話 六六一〇二六六

横浜市仏教連合会参与
天台真盛宗新善光寺住職

福 永 隆 昭

〒232-0002 南区 三春台一三三
電話 二三二一五七五四

横浜市仏教連合会会長
法華宗陣門流勤行寺住職

都 築 哲 信

〒220-0002 西区 南軽井沢九
電話 三一一三三五七

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241-0822 旭区 さちが丘五九
電話 三九一一三七九

横浜市仏教連合会副会長
鶴見区仏教会長
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230-0077 鶴見区 東寺尾一八一
電話 五七一七一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221-0057 神奈川区 高島台一
電話 三二二一〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244-0842 栄区 飯島町二一四九
電話 八九一一一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
西区仏教会長
曹洞宗萬徳寺住職

横 山 正 彦

〒220-0031 西区 宮崎町三二
電話 二四二一四五三三

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224-0053 都筑区 池辺町二八二七
電話 九四一―一三六七

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禅寺住職

市 川 智 彬

〒232-0007 南区 清水ヶ丘二二五
電話 二三二一七五九〇

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235-0055 磯子区 東町六一二〇
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
港北区仏教会長
曹洞宗貴雲寺住職

渡 辺 道 春

〒222-0034 港北区 岸根町六一四
電話 四九一―九三〇二

横浜市仏教連合会常務理事
緑・青葉区仏教会長
高野山真言宗東観寺住職

野村泰秀

〒226 0001 緑区東本郷一―二―一―一
電話 四七―一―九二二三七

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
真宗大谷派最勝寺

柳沢柳丸

〒246 0021 瀬谷区二ツ橋町三三七
電話 三六二―一六〇七二

横浜市仏教連合会監事
浄土宗宝心寺住職

丸地良信

〒245 0016 泉区和泉町三一一九三
電話 八〇二―一三一―一八

横浜市仏教連合会監事
真言宗智山派東漸寺住職

森岡隆冲

〒230 0041 鶴見区潮田町三一―四四―二
電話 五〇一―二三八八

横浜市釈尊奉讃会事務局長
曹洞宗東照寺東堂

程木徳明

〒223 0053 港北区綱島西一―十三―十五
電話 五三一―一七七八三

横浜市仏教連合会時局対策委員長
日蓮宗大圓寺住職

佐藤功岳

〒231 0859 中区大平町九四
電話 六四一―四九三三

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林田眞成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二―一四〇
電話 三三一―〇六〇七

横浜市仏教連合会会報担当
真言宗豊山派西福寺住職

備前恭忍

〒246 0037 瀬谷区橋戸三一―二一―二
電話 三〇一―六一三四

横浜市仏教連合会会計
浄土宗浄念寺住職

橋下賢明

〒234 0056 港南区野庭町一八四三
電話 八四二―七二八八

横浜市仏教連合会会計
日蓮宗妙光寺住職

秋山智謙

〒246 0006 瀬谷区上瀬谷町八一―三
電話 三〇一―二九八九

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠藤隆也

〒221 0022 (自宅) 神奈川区白幡上町一八一―三
〒110 0015 (事務所) 台東区東上野二―一八一―七
電話 〇三―八三―一―二八一九

横浜市仏教連合会御用達
株式会社エヌ観光神奈川社長

真川明

〒240 0022 保土ヶ谷区西久保町一―四
公園ハイツ二―一―一八
電話 三三四―三四〇〇

戸塚区

私達の戸塚区仏教会は浄土宗十ヶ寺、臨濟宗八ヶ寺、曹洞宗六ヶ寺、真言宗五ヶ寺、日蓮宗三ヶ寺、浄土真宗二ヶ寺、真宗二ヶ寺、時宗一ヶ寺の計三十七ヶ寺で活動をしている。しかし宗派がちがうと日常的に交際はなく、一年に一回の花まつりなどに会う程度である。私達の仏教会には旧戸塚町で作る戸塚町仏教会がある。戸塚駅周辺の寺々が会員となり花まつりなども参拝者を集めるためには町はずれのところでは人集めに困難なことを考えると町仏を中心とした駅近くの寺で花まつりなどの行事を行うことが一番である。

近年世代交替が始まり、私達もいつのまにか長老となつてしまつた。若い人が良く動いてくれる。これからの戸塚区仏教会も若い人を中心として新しい若い力を結集して仏教会を発展していきたいと思つています。今まで余り仏教会に対して興味もなく関心も持たずに居た私が思いがけず会長になるなんて思つても見なかつた。

しかし今は何とか皆様の協力を得て戸塚区仏教会のために頑張ろうと思つています。(福田俊光記)

緑・青葉区

当仏教会では、会員の研鑽と親睦を深めるため、去る一月二十七日、一日バス教師研修旅行を行いました。参加は十一ヶ寺でした。東京国立博物館「南禅寺特別展」昭和館、浅草寺参拝という内容です。



特に昭和館(九段会館隣)は、

戦中戦後の生活の労苦を中心にしたテーマ館で、出征・統制される生活・戦時下の子供・空襲・終戦直後・残された家族・子供たちの戦後・復興する社会、それぞれに関する資料が展示されています。その当時をご存知の方にはとても懐かしい物があるようです。一時間しか予定していなかつたため、映像・音響・図書についての展示を見ることができませんでした。都内中心の参拝旅行等にお奨めいたします。

事務日誌

- 15.9.29 秋の仏跡参拝旅行
- 15.10.1 新潟・山形方面
- 15.10.23 役員会(涅槃会の件)
- 15.11.3 弔電 神奈川区宗興寺
- 15.11.17 理事会案内発送
- 15.11.21 涅槃会打合(円通閣)
- 15.12.8 理事会忘年会(華正楼)
- 16.1.15 涅槃会案内発送

又、昨年復活させた区仏灌仏会今年は青葉区真言宗・徳恩寺様を会場に行う予定です。

栄区

栄区仏教会では、昨年十二月十七日「歳末助け合い鉢募金」を本年一月十七日「阪神・淡路大震災救援鉢募金」を、JR根岸線本郷台駅前にて行いました。

今回で三回目となる歳末助け合い募金は、神奈川新聞厚生文化事業団へ寄託し、平成七年四月十七日から三年間は毎月十七日に、それ以後は、毎年一月十七日に行つてきました救援募金は、「あしなが育英会」により設立された、震災遺児育英の為の「神戸レインボーハウス」に寄付致しました。

平成七年一月十七日早朝、兵庫県を中心に大規模な地震が起き、死者・行方不明者は六四三六名にも及びました。九年の歳月が経過した今でも、テレビの画面に映し出されたその第一報である、上空から撮影された神戸市内の凄まじい映像は、忘れる事ができません。

と共に、「何時でも私達の身近に起こり得る事である」と云う想いが一月十七日を向かえる毎に、強く心の中に湧き起ります。今現在も、国内をはじめ世界各所で、紛争や犯罪や自然災害により、多くの掛け替えの無い人命が奪われ、その為に、家族や友人を失つた人々が、大きな苦しみを背負つて生きています。私達栄区仏教会は、「阪神・淡路大震災」を出発点とした募金活動を通じて、全ての人が苦しみを乗り越え、明るい未来へ歩んでくださる事を、心よりお祈り致します。

金沢区

昨年の第53回金沢仏教文化講演会は、鎌倉光明寺法主、宮林昭彦台下により、「現代を生きる仏の知恵」というテーマでお話いただいた。

現在の物質文明を突き進んだ先に何があるか、など、日本の近代化と共にやってきた大気汚染や自然破壊にふれ、便利さを求めるあまり置き去りにしてきた精神的な豊かさについてお話しされた。

そして仏の教えをよりどころとして生きてゆくことの大切さを説かれた。

第二部では、元参議院議員、大正大学教授、野末陳平先生に、「大転換の時代」夫婦・親子・嫁姑の付き合い方」と題して講演いただいた。終始、笑いを交えて、テンポ良く話され、会場を退屈させない。爆笑と大きな拍手に包まれ、充実した集会となった。

編集後記

鳥インフルエンザが猛威を奮う。ベトナムでは人間が感染死した。二月に京都府丹波の養鶏場の大量感染が内部告発によつて発覚した。倒産を恐れて出荷を強行し、目先の利益に執られて大きな利益を失つた。他人事ではなく、利他行の実践の良し教訓としたい。

岡部伊都子さんの「除夜の鐘の音」のエッセイの一節を読み、信仰が何かを知つた。「悟りなんて、悩まなくなることで、ではなくて、悩むべきことを悩む力を備える」ことだつた。その力がなくて苦しむ。」

安井覚明師の「涅槃について、死に方は生き方」を拝聴して、「自分をつちり悩んでごらん」と莊重な除夜の鐘は、全生命体にひびき流れる」の文章を思い起こした。

佐藤委員長の話では、其葬儀社様から、自社独自で各宗派僧侶派遣ネットを組織済みであるので、市仏ネットに参加しない旨の回答があつた由。そのような方法が問題だから、正しい葬儀を目指して、市仏ネットを立ち上げたのにと、佐藤師の苦笑が電話の向こうから伝わつてきた。

イラクの復興支援のため、自衛隊が派遣された。総数四百名の隊員は事前にイスラム教の生活週間を学習したそうだ。宗教は平和を念ずるものでなければならぬ。今号の都築会長の題名人りの熱のこもつた文章は大いなる励みである。